

ふじみの



No. 34

東京農大畜友会

巻頭言

畜産学科 学科長 天野 卓

今年も卒業生を社会に送り出し、そして新入生を迎える季節がめぐって来ました。いつの時
代も、誰にとっても新たな世界への出発は胸のときめきをおぼえるものです。

先ずはこの三月にご卒業の諸君、おめでとうございます。晴れて社会人となられる諸君達の
新たな人生の門出に対し、心から声援を送ります。諸君達にとって、今振り返ってみれば短か
かった学生生活だったかもしれません。畜産学科で学んだ学問、大学生活で得た友人そして
数々の経験を十分に活用しつつ、いつでも母校の門をたたき、先輩として研究室にまた元気な
顔が出せるような素晴らしい人生を送って下さい。期待しています。

またこの春、難関を突破して入学されてきた諸君、おめでとうございます。農大は百七年の

歴史を基礎にして大改革を行い、この四月から五学部十五学科の新体制となります。畜産学科はこれに伴い、新農学部として厚木キャンパスにおいて新たなスタートを切るしだいです。諸君達は農大大改革後の初めての学生ということになります。農学部は農大の中で最も伝統のある学部、言い換えれば五学部の中では本家ともいべき学部です。諸君達はその農学部の畜産学科に入学されたわけです。初心忘れること無く、有意義な学生生活を始めて下さい。

この大きな改革を受けて畜友会は、平成十年二月二十日に新会則を制定し、それに基づく新体制を発足させました。当初は畜友会員が世田谷と厚木の二カ所のキャンパスにまたがることとなりますが、新執行委員長を始めとする委員の諸君や上級生諸君は畜友会が持つ約四十年の歴史の火を消すことのないよう、厚木新キャンパスの新会員にもしっかりと伝統を引き継いでくれることを強く念じております。がんばって下さい。

最後になりましたが畜友会の機関誌「ふじみの」三十四号の発刊にあたり、原稿をお書きいただいたり、編集に努力された関係各位に深甚なる敬意を表します。

ふじみの発刊にあたり

畜産学科三年 三嶋 純 雄

菜の花の香り漂い、桜の芽もほころぶ今日この頃、今年も「ふじみの」第三十四号を発刊する事になりました。

さて、本誌は畜産学科の先生方、学生達の原稿を記載すると共に、昨年一年間の事業報告等を記載しています。一人一人が、一生懸命書いた文章ばかりなので、みなさん最初から最後まででしっかり読んで下さい。

ふじみの

第34号

目次

巻頭言

天野 卓 1

研究室だより

畜産物利用学研究室 8

家畜育種学研究室 10

家畜衛生学研究室 13

家畜生理学研究室 15

家畜飼養学研究室 18

家畜繁殖学研究室 21

畜産学科共通研究室 24

家畜経営学研究室 27

ふじみの発刊にあたり

三年 三嶋 純雄 3

同窓会だより

同窓会長あいさつ

伊藤 澄磨 6

畜産振興会

東京農業大学畜産振興会の紹介 渡邊 誠喜 7

集う学友

海外研修を終えて 三年 村上 泰己 29

私の転機 三年 中澤 庸子 31

正しい農大生の体験 二年 矢崎 潤 32

編集後記

44

新会則による平成九年度畜友会事業計画(案) 39

東京農業大学畜産学科「畜友会」会則 40

畜友会だより

平成九年度畜友会事業報告 33

平成九年度畜友会決算報告 34

東京農業大学農友会第一〇六回収穫祭

畜産学科統一本部決算報告 35

創立一〇六年収穫祭結果報告 36

第二十七回学内スポーツ大会結果報告 37

新会則による平成九年度畜友会役員 38

同窓会だより

同窓会長あいさつ

畜産学科同窓会

会長 伊藤 澄 磨

畜産学科は、昭和二十八年に第一回の卒業生二十七名が世に出て以来、今日までに四十四回（平成七年度）の卒業式が行われ、延べ五千三百五十九名の同窓生が、国の内外を問わず、畜産業界ならびに関連産業界においてそれぞれ活躍されております。

我々の畜産学科は、昭和二十四年に千葉県茂原において千葉農学部畜産学科として設置され、昭和三十六年に茂原から世田谷に移転し、丁度四十周年に当たる昭和六十三年に「東京農業大学農学部畜産学科同窓会」が発足して今日に至っております。

本会は、会員相互の親睦をはかり、併せて畜産学科の発展に寄与することを目的として設立され、会員の皆様のご協力により着々とその事業を展開し、九年目を迎えるようとしております。

この間に

一、畜産学科（畜友会）への援助

二、新入会員および卒業祝賀会への援助

三、会員名簿の追補発行

四、同窓会報の発行

五、総会および親睦会の開催

六、役員および常任幹事会の開催

等の諸行事を行っております。

卒業生の諸氏は、本日より同窓会の会員となられる訳であります。どうか、ここ東京農業大学農学部畜産学科で学び成長されたことを生涯の絆として各界でご活躍されることをお祈りいたします。

また、準会員ともいふべき在学生諸君は、畜産学科を母として、友となる「同窓会」を活用し、その恩恵を受けていただき幅広い人格を形成され勉強（研究）ならびに課外活動に全力を投球して悔いのない学生生活を送って下さい。

畜産振興会

東京農業大学畜産振興会の紹介

東京農業大学畜産振興会

会長 渡邊 誠 喜

畜友会の機関誌「ふじみの」の紙上を借りて東京農業大学畜産振興会について紹介させて頂きます。

この畜産振興会は平成三年三月二十二日に設置され、その事務所は畜産学科内に置かれています。

本会の設立の目的および事業はその規約に東京農業大学農学部畜産学科および同大学院農学研究科畜産学専攻に所属する学生の教育・学術研究の向上に資することを目的とし、本会の事業としては、

- (1) 学生への奨学金の貸与・補助
 - (2) 学生の海外研修に対する補助・助成
 - (3) 優秀卒業論文の表彰
 - (4) その他目的を達成するために必要な事業
- となつて居ります。本会は役員として理事・監事が選任され、理事会を組織し、必要事項が審議・決定され、運

営されています。また、役員以外に評議員による評議員会が組織され、会の運営に遺漏のないよう配慮されています。

本会の資産は

- (1) 東京農業大学畜産学科同窓会からの寄付金
- (2) 賛助会員会費
- (3) 一般寄付金
- (4) その他の収入

となつて居ります。本会設立の発端は畜産学科同窓会からの寄付金並びに（故）江渡宇徳君（平成二年十二月、当時畜産学科二年次生）のご遺族からのご寄付によるものであります。その後、何件かの寄付が寄せられ、本会の原資となっております。

これまでの事業としては平成三年度以降毎年農学部畜産学科の優秀卒業論文を一件ずつ表彰すると共に、平成六年度以降には大学院生の海外研修に対しても助成するなど、逐次事業も拡大して居ります。それにしても、資産を増加させることが事業の拡大に直接係るところでありますので、役員一同努力致している処であります。卒業生には本会の設立趣旨を理解され、本会の育成のためご支援賜り度く、お願い申し上げます。また、在校生にあっては、本会の目的に叶う事柄が生じた場合には、本会を活用され、充実した学生生活を送られますよう祈って止みません。

研究室だより

畜産物利用学研究室

本研究室は室長の山中良忠教授をはじめ、高橋強囑託教授、古川徳助教授、松岡昭善助教授の4名の先生方の御指導のもとに、大学院生5名、4年次生30名、3年次生28名の室員がそれぞれ活発な活動を行っております。研究テーマは、大きく次の5つに分けられます。

- ◎卵の生理活性物質
- ◎加熱シヨック乳酸菌のチーズ熟成への利用に関する研究
- ◎乳酸菌の酵素活性を利用した食品の保存法に関する研究
- ◎発酵乳製品の栄養生理学的研究
- ◎各種畜肉の種族特異的タンパク質の検索及び栄養成分の比較研究

また、加工利用では消費者に対して有効でよりソフトな食品の開発に取り組み、さらに加工所における実習を通じて製造設備、製造技術への理解を深めることにも努力しています。

その他の主な活動としては食品に関するゼミナール、新入室員歓迎会、乳酸飲料製造実習、模擬店(ロースハム、スモークドチキン、プリン等の製造実習を通じて)への参加、研修旅行、卒業論文発表会、卒業生送別会などがあり、こうした行事には素晴らしい団結力を発揮し活動しています。

平成9年度卒業論文題目

学籍番号	氏名	論文題目	指導員
f94 008	有賀わかな	烏骨鶏の発育過程における体成分の変化	松岡
f94 009	安澤 豊	烏骨鶏の発育過程における骨の理化学的性状の変化	山中
f94 015	石田 香	アイラグ中の酵母の分離と同定	古川
f94 020	井上 祐子	派米実習中	
f94 033	王 慶豊	乳中の固有抗菌因子に関する研究	古川 高橋

f94 038	大場 宏	ケフィール粒由来乳酸菌を用いた発酵ソーセイジの製造に関する研究	古川 松岡
f94 053	金内 一浩	乳酸菌、乳酸菌発酵エキスの疫調整機能の解析	古川
f94 068	熊谷 直樹	アイラグ中の乳酸菌の分離と同定	古川
f94 075	小泉亜矢子	人由来培養細胞に対する乳酸菌の接着性に関する研究	古川
f94 076	河瀬 香代	乳酸菌、乳酸菌発酵エキスのNK活性に関する研究	古川
f94 101	柴田百合香	チーズ促熟ヒートシヨック乳酸菌の研究	高橋
f94 115	須藤友希江	清酒粕を糖源とした発酵ソーセイジの製造に関する研究	松岡
f94 121	高杉 佳子	チーズの熟成指標に関する研究	高橋

f94 128	谷 謙治	ヨーグルクトシダージェ活性化乳酸菌の利用に関する研究	古川 高橋
f94 131	知切 威徳	筋奨タンパク質のHPLC分画像による家畜肉による識別	松岡
f94 147	波多野 諭	高圧処理によるタンパク質・糖複合体の製造に関する研究	古川
f94 148	濱本 真也	発酵後に加熱処理したソーセイジの熟成に関する研究	松岡
f94 152	東 敬子	アイラグ中の酵母の分離と同定	古川
f94 158	深澤 耕一	山羊乳ホエー画分の静菌性に関する研究	古川
f94 170	松永 絹子	酒粕漬けソーセイジの製造に関する研究	松岡
f94 185	村山 壮徳	烏骨鶏の発育過程における脂質の変化	松岡
f94 187	森 亜紀子	芳香性乳酸菌を利用した発酵	古川

f94 190 八重畑信義
アイラグ中の乳酸菌の分離と
同定 高橋 古川

f94 197 山田 達也
卵黄リポタンパク質の生理活
性に関する研究 山中

f94 205 渡辺 華代
経口摂取した乳酸菌の腸内定
着性に関する研究 古川

f94 802 莊 佩媛
台湾における食肉製品の消費
動向と将来展望 松岡 山中

f93 175 前川 鉄也
電気泳動法による肉種の識別
古川 松岡

f96 607 野上 綾
山羊乳の静菌作用について 古川

家畜育種学研究室

家畜育種学とは、動物の進化の方向を、人間の必要とする方向に変更し、促進するための学問体系である。家畜育種学研究室では、家畜改良の基礎となる遺伝学、血清学、育種学、分子生物学的見地から広範囲にわたる研究活動が実施されています。

当研究室では、田中一栄教授をはじめ、天野卓教授の指導の下、野村助手、古郡実験助手、副手2名、大学院生8名、4年生19名、3年生22名によって構成され、室員各自の自覚と互いの協力によりそれぞれの目標に向かって日々研究が続けられています。主な研究テーマとしては電気泳動による血液蛋白質の研究・モノクローナル抗体を用いた赤血球抗原型に関する研究・組織適合性抗原遺伝子のDNA解析などが行われています。

研究室での日常の活動では実験動物の管理、毎週行われるセミナー、定例委員会、卒業論文などの研究、実験における問題点を解決するために討論されています。さらに、研究活動は学内だけでなくとどまらず、先生方は学会や研究のためにされ、また学生も他大学や他の研究機関に出向き研究を行っています。

研究室における主な年間行事は、新室員歓迎会、定期総会、収穫祭への参加、研修旅行、特別講演会、卒業論文発表会などがあります。

平成9年度卒業論文題目

f94 007 有川 美和
家畜臓器を用いたヒト人工臓器に関する研究—培養下における肝細胞の分化機能喪失機構について— 天野

f94 012 石井 里絵
ヤギの個体識別遺伝子マーカーに関する研究 天野

f94 043 岡松 剛士
ウシMHC class II遺伝子の多型に関する研究 天野

f94 047 小野由紀子
マウス androgenetic胚の発生解析 田中 河野

f94 058 川上 議聖
ウシMHC class II遺伝子の多型に関する研究 天野

f94 065 久保田敏之
スイギュウMHC class II遺伝子の多型に関する研究 天野

f94 070 熊上 秀夫
ウシの血液蛋白質支配遺伝子に関する研究 天野

f94 088 坂口 啓介
ウシMHC class II遺伝子の多型に関する研究 天野

f94 089 坂詰 由記
ウシ赤血球抗原の血清学的研究 天野

f94 104 志村 剛生
ウシの血液蛋白質支配遺伝子に関する研究 天野

f94 120 高市 博仁
マウス精巣におけるFas - Fas - ligand systemの発現とその機能に関する研究 天野

f94 132 中言 亜樹
核移植したウシ再構築胚の体外発生能と核の正常性に及ぼす活性化処理の影響 田中 岩崎

f94 141 中野 良子
血液蛋白質からみたスイギュウの系統遺伝学的研究 天野

f94 150 原 雅博
ウシ赤血球抗原の血清学的研究 天野

f94 161 福田 洋子 Mus. spretus 由来 IgG2 領域を導出したコンジュニクマウス (C57BL/6J.SP-H-Ig12) の作出 田中 河野

f94 164 舟越 未羽 ウシ赤血球カーボニックアンヒドラーゼの遺伝学的研究 天野

f94 165 古川 典子 ウシMHC class II 遺伝子の多型に関する研究 天野

f94 166 古澤 隆 ウシ赤血球抗原の免疫化学的研究 天野

f94 171 松永 丈彦 ヤギ毛に関する形態学的研究 天野

f94 181 村瀬 亜弓 家畜における構造遺伝子マーカーの開発に関する研究 天野

f96 602 木下 由紀 家畜における構造遺伝子マーカーの開発に関する研究 天野

f96 611 持田 科子 ヤギ赤血球抗原の血清学的研究 天野

f93 052 金崎 厚 神奈川県農耕地のカラスによる被害とその対応の現状について 田中

家畜衛生学研究室

我が、家畜衛生学研究室は、室長の近江弘明助教をはじめ、渡邊忠男助教、鹿江雅光嘱託教授、東量三客員教授、各先生のご指導のもと、副手一名、大学院生三名、四年生二十七名、三年生三十二名で構成されています。

室員は、各自で希望する家畜、家禽別に、牛班、豚班、鶏班、実験動物班の四班に分かれ各家畜、家禽の疾病に対する予防法および環境衛生などの研究を行っています。

家畜衛生とは、「家畜、家禽の生命を脅かす種々の健康阻害因子を除去および予防し、生命の延長をはかり、かつ生産性の向上を目的とする」が、元来の家畜衛生のあり方であったが、最近では「動物の福祉」という観点からの家畜衛生、及び、伴侶動物（俗に言うペット）の衛生管理法など、家畜、家禽にとられない家畜衛生が加わってきています。また、本学家畜診療所においても一般外来動物の診療を中心に各種の研究活動が行われています。

その他の研究室活動は、年間行事として新入室員歓迎会、収穫祭に模擬店として「しし汁」を出店、前・後期納会、一泊二日の研修旅行、月二回の定例会などがあり、室員の団結を深め、各々が、目標意識を持って有意義な研究および、研究室活動を行っています。

平成9年度卒業論文題目

学籍番号	氏名	論文題目	指導教員
f94 002	青木 茂	豚疥癬症におけるグニの検出法について	近江 鈴木
f94 003	青山 信子	歯牙切除豚に6ヶ月齢時における歯牙の形態的観察	近江 鈴木
f94 004	赤木 光伸	野外より分離した鶏壊死性腸炎菌の雛に対する病原性の研究	近江 渡邊
f94 005	新井 史織	豚回虫卵人工感染モルモットの臨床病理所見について	近江
f94 036	大川 裕人	Tonsillophilus suis の遺伝学的研究	渡邊
f94 041	大吉エリカ	伴侶動物の衛生管理に関する研究 予防薬接種子猫の抗体価の推移について	近江

f94 055	金坂 智代	豚回虫卵人工感染豚の臨床病的観察	近江 渡邊
f94 063	古 文嘉	高度病原性IBDウィルスの病原性に関する研究	渡邊
f94 066	久保田祐子	伴侶動物の衛生管理に関する研究 路上排泄犬糞の内部寄生虫卵保有状況	近江
f94 071	隈部 康正	豚舎構造の相違が豚体の健康に及ぼす影響	鈴木 近江
f94 077	小迫 千歳	伴侶動物の衛生管理に関する研究 予防薬接種犬の抗体価の推移について	近江
f94 078	興石 ゆみ	不潔分泌排出ミニブタの臨床病的観察	渡邊 近江
f94 082	小林 節子	豚の肝白斑から分離される菌—グラム陽性桿菌について—	渡邊 近江
f94 102	嶋崎 寛之	駆虫剤処理豚における駆虫効果と肝白斑の発生状況	鈴木 近江
f94 173	三浦 達也	Actinomyces suisの遺伝学的研究	渡邊
f94 182	向島 君枝	藤枝市近郊酪農農家における内部寄生虫卵の保有状況について	荻原 近江
f94 201	吉田 静香	豚回虫卵人工感染豚の臨床的観察	近江 渡邊
f96 603	高野 恵美	豚の肝白斑から分離される菌—グラム陽性球菌について—	近江 渡邊

f94 103	清水 紀枝	伴侶動物の衛生管理に関する研究 犬の発情期並びに妊娠期における臨床的観察	近江
f94 107	定石 達也	犬鉤虫人工感染犬の臨床的観察	近江
f94 119	芹澤友美子	コクシジウム感染がプロイラ—の発育に及ぼす影響	渡邊 西脇
f94 133	土屋 光世	犬鉤虫人工感染犬の臨床病的観察	近江
f94 145	二宮 理奈	ホロホロ鳥より分離されたコクシジウムに関する研究	渡邊 西脇
f94 149	端山 彩女	山羊に寄生するシラミ類の駆除法について	近江
f94 156	平野 順子	伴侶動物の衛生管理に関する研究 予防薬接種子猫の臨床的観察	近江
f94 163	藤村 桜	猪の発育に伴う歯牙の形態的観察	鈴木 近江

家畜生理学研究室

家畜生理学研究室は、渡邊誠喜教授をはじめ、半澤恵助教授、原ひらみ副手の御指導のもと、大学院生8名、(内3名がタイからの留学生)、学部4年次生30名、3年次生23名で構成されています。

本研究室では、家畜・家禽に発現する生理的な特徴や、その生理的機構の遺伝的支配に関する研究が行われており、対象動物によって、①ウマに関する研究、②ウズラに関する研究、③その他の動物に関する研究、に大きく分けられます。

①においては、運動生理上の赤・白血球の変化、造血幹細胞の培養と赤血球の成長・生体内機能に関する免疫学的・血清学的解析が行われています。②においては、MHCに関する分子遺伝学的・免疫学的解析や高温環境がウズラに与える影響に関する研究が行われています。③においては、ウシの免疫学的・血清学的・内分泌学的解析や高温環境がシバヤギに及ぼす影響に関する研究、自然交配により生産されたクジャクとニワトリの交雑種に関する研究、などが進められており、また、本学科以外の機関へ出向き、ウシ・マウスの遺伝子の解析を中心とした研究や、ヒトのガン細胞に関する研究が進められています。研究室における日頃の活動は、3年次では、生理学に関する基礎的な知識や実験の技術を身につけると

共に、実験動物の飼育管理、院生や学部4年生の卒業研究の補助として協力しています。4年次になると、前述した研究の中から各々のテーマを選択し、卒業論文研究を行っています。

年間の主な行事として、新入室員歓迎会、研修旅行、卒業論文発表会、卒業生送別会、年2回の納会、週1回のゼミナール等があります。

なお、平成9年度の卒業論文の題目は次のとおりです。

平成9年度卒業論文題目

学籍番号	氏名	論文題目	指導教員
f94 001	相本 隆史	In Vitroにおける温度及びPHの変化がウマ赤血球の浸透圧脆弱生に及ぼす影響	渡邊 半澤
f94 011	池 さおり	高温環境に対するシバヤギの生理的応答に関する研究	渡邊 半澤
f94 018	坂垣るみ子	ウマ免疫臓器における免疫担当細胞の存在に関する免疫化学的検索—胸腺、脾臓ならびにリンパ節について—	渡邊 半澤
f94 054	金指 智	ウマ末梢血由来幹細胞のIn Vitro培養赤血球の光学顕微鏡的観察	渡邊 半澤
f94 045	小野奈緒子	ウマ末梢血由来幹細胞のIn Vitro培養赤血球の光学顕微鏡的観察	渡邊 半澤
f94 044	岡村 麻未	ヒト上皮幹細胞に関する研究—増殖因子受容体の発現と機能—	渡邊 半澤
f94 032	榎本 真理	ウマ免疫臓器における免疫担当細胞の存在に関する免疫化学的検索—消化管付随リンパ組織について—	渡邊 半澤
f94 028	牛田 二朗	ウマ赤血球膜の老化にともなう無機イオン輸送系の活性の変動	渡邊 半澤
f94 021	井原 志津	ウマ末梢血由来幹細胞In Vitro培養赤血球の電子顕微鏡並びに共焦点レーザー顕微鏡による観察	渡邊 半澤
f94 057	神山美津江	ニワトリ (Gallus gallus domesticus) 及びニホンウズラ (Coturnix Japonica) 並びにその属間雑種におけるHSP 70 遺伝子の変化に関する研究	渡邊 吉田
f94 091	佐々木聖幸	高温環境におけるニホンウズラの生理的諸現象に関する研究	渡邊 半澤
f94 093	佐藤 幸子	高温環境がニホンウズラの肝臓組織に与える影響について	渡邊 半澤
f94 100	篠崎 真紀	加齢に伴うウズラのファブリシウス囊の組織学的並びに免疫学的変化	渡邊 半澤
f94 118	関根 裕一	In VitroにおけるPHの変動がウマ赤血球の無機(K)イオン輸送並びに容積に及ぼす影響	渡邊 半澤
f94 123	滝澤美佳子	鶏卵黄中ホスビチンに対する抗体の作成並びに血清中ホスビチンの生成器官の検索	渡邊 半澤
f94 126	田鳥 崇	ウズラにおけるT細胞表面抗原の加齢に伴う変化—特に胚時期並びに幼雛期について—	渡邊 半澤
f94 127	田島 柳一	自然交配により生産されたクジャクとニワトリの属間雑種の血液の蛋白および酵素の分子型について	渡邊 吉田
f94 134	手計 高志	ウマ末梢血由来幹細胞のIn Vitro 培養赤血球における2、3の血液型抗原の出現状況—特に溶血原について—	渡邊 半澤
f94 138	出口研太郎	ニホンウズラの主要組織適合遺伝子複合体(MHC)クラスI領域内の3つの遺伝子座(A,C,D)における多型解析	渡邊 半澤
f94 140	土井 俊史	ウマ末梢血由来幹細胞のIn Vitro 培養赤血球における2、3の血液型抗原の出現状況—特に凝集原について—	渡邊 半澤
f94 157	平柳 恵子	高温環境がニホンウズラの肝	渡邊

臓と血漿の蛋白質に与える影響 半澤

家畜飼養学研究室

f94 160 福田 優子 ニホンウズラ (Coturnix Japonica) の MHC class I B 遺伝子座の PCR-RFLP 解析 半澤

自然交配により生産されたクジャクとニワトリの属間雑種の DNA 解析 半澤

f94 168 本野 由夏 ビタミン A 欠乏黒毛和種肥育牛の血中レチノイド、カロテンノイド並びに甲状腺ホルモンの変動に関する研究 吉田

ニホンウズラ及び白レグホーン並びにその属間雑種における MHC (主要組織適合遺伝子複合体) class I 領域内の DNA 解析 渡邊

f94 169 平井美奈子 神奈川県の酪農における現状調査並びに問題点の提言 渡邊

柳 賢治 二回の納会、秋の畜産関連諸施設の見学を兼ねた研修旅行で室員相互の親睦を計っている。四年生になると卒業論文作成のための実験および研究が中心になり、計画発表会および研究成果発表会を通してお互いに研鑽している。

f94 191 柳 賢治 柳 賢治 二回の納会、秋の畜産関連諸施設の見学を兼ねた研修旅行で室員相互の親睦を計っている。四年生になると卒業論文作成のための実験および研究が中心になり、計画発表会および研究成果発表会を通してお互いに研鑽している。

神奈川県の酪農における現状調査並びに問題点の提言 渡邊

f93 087 佐藤淳一郎 神奈川県の酪農における現状調査並びに問題点の提言 渡邊

平成9年度卒業論文題目

学籍番号 氏名 論文題目 指導教員

f94 006 荒川智世子 リードカナリーグラスのアルカロイドに関する研究・2番草における日射量とアルカロイド含有量との関係 大谷

大谷 笠原 良明 リードカナリーグラスのアルカロイドに関する研究・3番草における日射量とアルカロイド含有量との関係 栗原

f94 014 石川 智弘 ラップサイロの貯蔵方法、特に縦置、横置が品質におよぼす影響 大谷

大谷 栗原 祐森 給与飼料中のタンパク質量がウサギの排泄糞の化学成分におよぼす影響 栗原

f94 022 岩切 稜子 環境温度の日内変動幅がブロイラーの消化率におよぼす影響 栗原

栗原 伊藤 考徳 歩行運動が豚の成長におよぼす影響・500gの歩行を1日2回行った場合 伊藤

f94 031 榎崎潤之介 給与飼料の形態が育成豚の嗜好性におよぼす影響 伊藤

伊藤 鈴木 環 給与飼料の形態が育成豚の嗜好性におよぼす影響・高温環境の場合 鈴木

f94 040 大村桂一郎 ラップサイロの貯蔵方法、特に縦置、横置が化学成分におよぼす影響 大谷

大谷 伊藤 重松のどか 歩行運動が豚の肉質、特に物 伊藤

f94 051 笠原 良明 リードカナリーグラスのアルカロイドに関する研究・3番草における日射量とアルカロイド含有量との関係 栗原

栗原 祐森 給与飼料の形態がウサギの嗜好性におよぼす影響 栗原

f94 059 川崎 弘恵 給与飼料の形態がウサギの嗜好性におよぼす影響 栗原

栗原 伊藤 環境温度の日内変動幅がブロイラーの体成分におよぼす影響 伊藤

伊藤 栗原 祐森 給与飼料中のタンパク質量がウサギの排泄糞の化学成分におよぼす影響 栗原

栗原 祐森 給与飼料の形態が育成豚の嗜好性におよぼす影響・高温環境の場合 鈴木

鈴木 鈴木 環 給与飼料の形態が育成豚の嗜好性におよぼす影響・高温環境の場合 鈴木

鈴木 鈴木 歩行運動が豚の成長におよぼす影響・500gの歩行を1日2回行った場合 伊藤

伊藤 鈴木 環 給与飼料の形態が育成豚の嗜好性におよぼす影響 鈴木

鈴木 伊藤 重松のどか 歩行運動が豚の肉質、特に物 伊藤

理的性状におよぼす影響・
1,500mの歩行を1日2回行
った場合 鈴木

f94 112 鈴木 寿之 消臭資材(酵素剤)の牛排泄
物悪臭ガスの発生抑制効果に
ついて 栗原

f94 117 関根 将人 日本畜産の現状・1997
年 伊藤 祐森

f94 154 久田 達也 環境温度の日内変動幅がプロ
イラーの成長におよぼす影響 栗原 伊藤

f94 159 深沢 博之 消臭資材(嫌気性剤)の牛排
泄物悪臭ガスの発生抑制効果 栗原 大谷

f94 188 森岡 雄次 給与飼料の形態が子豚の嗜好
性におよぼす影響・高温環境
の場合 伊藤 鈴木

f94 195 山口 孝司 盲腸の除去がラットの成長に
およぼす影響 池田 祐森

f94 198 山本 公男 歩行運動が豚の生理反応にお
よぼす影響 伊藤

よぼす影響・1,500mの歩行を 鈴木
1日2回行った場合

f94 204 渡辺 樹 絶食がラットの基礎代謝と体
成分におよぼす影響 祐森 栗原

f96 601 権沢竜太郎 環境温度の日内変動幅がプロ
イラーのエネルギー代謝にお
よぼす影響 栗原 伊藤

f96 604 田中香緒里 歩行運動が豚の肉質、特に化
学的性状におよぼす影響・
1,500mの歩行を1日2回行
った場合 鈴木 伊藤

f94 905 中村 美和 リードカナリグラスのアル
カロイドに関する研究・刈取
り後の保存方法とアルカロイ
ド含有量との関係 栗原 大谷

f96 606 長江さやか 給与飼料の形態が子豚の嗜好
性におよぼす影響 池田 伊藤

f96 608 英 麻美 高温環境下の運動がラットの
成長および体成分におよぼす
影響 栗原 祐森

影響

f92 128 西村 直樹 牛排泄物の悪臭ガス発生と環
境温度との関係 栗原 大谷

家畜繁殖学研究室

当繁殖研では百目鬼教授をはじめ、田中教授、門司助
教授、桑山講師、小川講師、のご指導のもと、大学院生
7名、4回生29名、3回生32名で構成されています。
家畜、家禽の効率的な繁殖方法を追求している当研究
室では、繁殖生理に関する研究、人工受精ならびに受精
卵移植に関する研究をおこなっています。具体的には、生
殖リズムとホルモンに関する研究、繁殖行動の内分泌的
支配に関する研究、精子ならびに卵子の凍結保存に関す
る研究、体外受精等の先端技術の研究です。
繁殖研での活動内容としては、3回生は繁殖学に関す
る基礎的な知識、実験等を身につけさせるとともに、飼
育動物の管理、4回生の卒業実験の補助を行っています。
4回生になると卒論にむけて日々研究を重ねています。
年間の活動内容としては、新入生歓迎会、年2回の納
会、大掃除、研修旅行、卒業論文発表会、卒業生送別会
(祝賀会)、毎週行われるゼミ等があります。その他、楽
しい企画がたくさんあります。

番号	氏名	論文題目	指導員
f94 017	磯畑耕一郎	シバヤギの発情周期および妊娠期における膣垢像および性ステロイドホルモン濃度の推移	百目鬼 桑山
f94 027	宇佐見鈴子	ウシ未成熟卵子のガラス化保存における細胞内脂肪顆粒除去の効果	百目鬼 門司
f94 029	内田真木子	烏骨鶏における性ステロイドホルモン分泌の季節的変動	田中 桑山
f94 030	内田 洋祐	シバヤギの早期離乳における卵巣機能回復	百目鬼 桑山
f94 074	小池 義文	ミニチュアブタにおける精液の射精型の分類および濃厚部と希薄部精液の5℃保存	門司 百目鬼
f94 092	佐藤 勝彦	雄シバヤギにおける繁殖能力の季節的変動	門司 桑山
f94 099	品川亜津志	乳牛の繁殖管理システムとしてのボディ・コンディション・スコアの検討	佐藤 門司
f94 103	鈴木 崇彦	卵丘細胞層の部分除去処理がガラス化保存後のウシ未成熟卵子の生存性に及ぼす影響	門司 百目鬼
f94 110	鈴木 健史	発生培地に添加するウシ胎児血清の脱脂処理がウシ胚発生に及ぼす影響	門司 百目鬼
f94 113	鈴木 秀則	ブタ凍結精液の透析膜による	門司
f94 037	大原巴里子	造精機能低下を示す雄ミニチュアブタにおけるLHとあるいはGROH製剤投与の効果	百目鬼 門司
f94 039	大道 佳世	ニホンウズラの加齢に伴う血漿メラトニン濃度について	田中 桑山
f94 042	岡崎 正一	乳牛の繁殖管理システムとしてのLHの検討	佐藤 門司
f94 046	小野 睦美	ウシ卵子とシバヤギ精子の受精の試み	門司 桑山
f94 061	木村 忠成	乳牛における分娩後の繁殖機能回復に関わる栄養充足率の検討	佐藤 百目鬼
f94 069	熊谷 宗矩	富士畜産農場における肉牛の過去の繁殖成績の解析と繁殖管理システムの改善	佐藤 百目鬼
f94 072	倉持 浩	超音波画像診断装置を用いたミニチュアブタの発情周期	百目鬼 桑山
f94 125	田代 格	鶏における社会的順位性について	田中 桑山
f94 162	福本 純代	ウシ成熟卵子の顕微受精における発生向上のための卵活性化	百目鬼 門司
f94 172	丸山 武則	ウズラ精巢間質細胞のLHによるアンドロジェン産生に対するメラトニンの効果	田中 桑山
f94 176	水上 綾	ブタ未成熟卵子のガラス化保存法の可能性について	門司 百目鬼
f94 177	水島香南子	超音波画像診断装置を用いたシバヤギの妊娠期における内部生殖器の観察と血中性ステロイドホルモンの濃度推移	百目鬼 桑山
f94 189	森久保 秀	セロトニンアニタゴニストの投与が育雛中の母鶏の血	田中 桑山

漿エストラジオール濃度に及ぼす影響

畜産学科共通研究室

f94 196 山坂 誠
 ホロホロチョウの卵殻形成時における血漿と卵殻腺液のカルシウム、マグネシウム、リン濃度について
 門司 小川

f94 203 依田 薫
 凍結精巢上体精子を用いたブタ体外受精における媒精時の精子濃度の検討
 門司 百目鬼

f94 206 渡辺みのり
 凍結射出精子を用いたブタ体外受精における媒精時間および精子濃度の検討
 門司 百目鬼

f93 001 相原 竹伸
 ホロホロチョウの卵殻質に関する研究
 小川 桑山

f93 197 村上 泰己
 超音波画像診断装置を用いたミニチュアブタの分娩後における子宮・卵巣像の観察
 百目鬼 桑山

共通研では、野性動物についての研究を、日々行っています。そのテーマは、個人が自由に選択できるので、先輩が行っている研究に興味を持った場合、いっしょに研究を続けていくこともできます。最初は何をすればよいかわからないと思いますが、そこはやさしい先輩方が天使の様な微笑みをもって、親切丁寧に指導してくれるので、初めてのフィールドでもへっちゃらさ。又、テーマを自分の興味あるものにするのも大丈夫です。

現在、共通研では、コウモリ、モグラ、ウマ、クマ、カナダガン(富士農場にいる渡り鳥、映画「グース」の鳥)など様々な動物を扱っています。本人にやる気があれば、きつとどんなテーマでもできるはずですよ。

「闘志なきものは去れ」これが共通研'98年のテーマです。一部ウソをつけてしまいました。すみません。でも私たちは明日に向かって走ります。そう走りつづけるのです。さあ次はアナタです。

平成9年度卒業論文題目

学籍番号 氏名 論文題目 指導教員

f94 010 飯田 知奈 馬の行動について
 ー特にコミュニケーションー
 吉行

f94 013 石川 誠治 富士畜産農場周辺部に定着したカンダガンに見られるhabitat行動パターンについて
 吉行

f94 034 大石 達弥 よみうりカントリークラブにおけるアズマモグラmogera wagusu (Temminck, 1843)の個体群解析
 吉行

f94 052 加藤 利奈 ハタネズミ亜科の主成分分析による形態的比較について
 吉行

f94 056 狩野 智史 アカネズミ、ハタネズミの2種間における生息環境の使い分け
 吉行

f94 085 齊藤 久 伊豆大島におけるコウモリ相とその食性
 吉行

f94 087 榊原 裕太 野毛山動物園における哺乳類・ネコ科の分類および行動観察
 吉行

f94 106 白石 俊明 アブラコウモリの長期飼育および飼育下における成長に伴う行動と形態
 吉行

f94 111 鈴木 健史 東京都恩賜上野動物園における飼育環境の変遷
 吉行

f94 122 高田 晃宏 富士畜産農場近隣における植作物群落と動物相
 吉行

f94 135 寺井 康太 山梨県須玉町に分布する哺乳類とその生息環境について
 吉行

f94 136 寺西 綾乃 立山室堂に棲息するライチョウの土地利用について得られた点、データのコンピュータの解析について
 吉行

f94 137	照沼 峰貴	白石と共著	吉行
f94 142	中野渡 充	青森県に生息する哺乳類について	吉行
f94 143	中村 良彦	奥多摩山地の堅果結果の農凶がツキノワグマの餌食帯としての選択性に与える影響	吉行
f94 146	橋口 華子	山梨県富士吉田市における小型哺乳類と近隣個体群の比較	吉行
f94 179	宮崎 拓己	千葉県立房総風土記の丘における齧歯類の個体群解析	吉行
f94 192	矢野 桃子	富士畜産農に棲息するカナダガンの個体数とHabitat解析	吉行
f94 194	山上 幸子	宮崎と共著	吉行
f94 200	油納 朝子	東京都下南八王子に棲息するホンドタヌキの食性分析と行動範囲について	吉行

家畜経営学研究室

平成9年度卒業論文題目

f94 023	岩朝 修	肥育牛の品種別経済性比較	新井 石関
f94 062	大木 団	中山間地農業における問題点と役割	石岡
f94 073	栗原恵一郎	名馬誕生の条件―名馬の母馬生産者をたずねて―	新井
f94 080	小尻 綾子	「環境保全型農業」の概念と形態文類	石岡
f94 083	小林 瑞樹	新潟県における畜産経営の特質―農林統計からみた―	石岡

f94 084	近藤 恵太	都市酪農の存立条件	新井 石関
f94 095	佐藤 智恵	乳量・乳質の季節変動とその要因	新井 石関
f94 096	佐藤 大	公共育成牧場の現状と問題点について―福島県白河高原牧場の事例を中心として―	石岡
f94 108	杉山 康弘	鶏卵価格の季節変動とその要因	新井
f94 129	谷川 雅隆	軽種馬生産における血統選択の変遷	新井
f94 139	東宮 伸敬	養豚一貫経営の繁殖成績―群馬県T養豚の実績から―	新井
f94 144	西林 秀記	北海道酪農と都府県酪農の比較分析	新井 石関
f94 151	原 万里子	採卵養鶏の鶏卵販売対応	新井
f94 155	平尾 正康	稲作・肉牛複合経営の有利性	新井

f94 202	吉永 憲生	吉永牧場におけるウシの行動パターン	吉行
f94 175	三澤 博子	福島県鮫川村における河川改修が水生昆虫におよぼす影響について	吉行
f96 609	藤岡 朝美	タイワンリスの腎脂肪率について	吉行
f96 612	上野 薫	奥多摩演習林における地上棲小型哺乳類の環境選択性に関する研究	吉行

f94 167	古沢 武春	和牛肥育における血統の相違が経済性に及ぼす影響	新井 石関
f94 180	宮下 政典	牛乳生産の季節性とその要因	新井 石関
f94 181	宮本 智章	肉専用種及び一代雑種の肥育経済—A牧場の出荷牛について—	新井 石関
f94 183	村上 満範	豚価の季節変動と養豚経営の対応	新井
f94 186	茂木 淳	動物福祉と家畜管理の現状	石岡
f94 193	矢部 剛史	観光牧場の現状と将来性について	石岡
f93 034	大須 賀論	豚肉の価格変動とその要因	新井
f93 135	鳥塚 誠一	量販店における鶏卵の販売戦略	新井
f93 203	森田 雅子	卵価変動と強制換羽	新井
f92 120	中村 孝之	ウインドレス鶏舎の生産について	石岡

について

集う学友

海外研修を終えて

畜産学科三年 村上泰己

『お前らになんか負けねーっ!』
 タワーサイロのてっぺんから、辺りも気にせず大声で叫んでみた。しかし、周りの反応は実に寂しいもので、私の実習生活唯一の友であるダニエル(ブラジル人)は、ただニヤニヤ見ているだけだったし、農場主が家から出てくる様子もなく、あとは牛達が口をくちやくちや動かしながら、夕日に照らされ静寂に吸い込まれていく私をポーンと眺めていた。そうなんです。こんなふうには、無性に腹立たしかったり、どうしていいか判らない時など、腹の底からの雄叫びで心のもやもやを解消していたのです。私は360度どこを向いても大平原で、町明りの一つも見えないアメリカの中西部で、小説『マディソン郡の橋』の舞台となった、アイオワ州の搾乳牛頭数70頭、育成豚数500頭、畑1200エーカーを有する農家に一年間お世話になりました。
 実習は私が想像し、夢描いていたアメリカンライフとは、天と地ほどの差のある過酷なもので、一年間の研修

中は毎日休みもなく、朝4時から夜は20時、遅い時には23時頃まで実習したこともありました。さらに、アイオワ州の気候は、異常気象と言っても過言ではなく、夏は35度の高温多湿の日々が続き、一転して、冬になるとバナナで釘が打てるほどの寒さで(もちろん試した)、一年を通し風が強いという場所、私の甘えた根性をたたきのめしてくれました。そのような場所での、一年間という短い期間ではありましたが、数多くの思い出や、人々との出会い、そしてアメリカの農業や習慣等、数多くのことを学び感じ取ることが出来ました。
 生まれて初めて人の手を借りずに、何もかも自分でこなすことは想像以上に大変でした。ダニエルとは一軒家に住み、寝起き、食事、外出、そして仕事をいつも共にしてきました。そのような中、見知らぬ土地アメリカでお互いの異文化に接することに抵抗を感じ、私達はよく衝突しました。しかし、いつしかダニエルも、私と同じ気持ちであったことを、お互いに理解し、尊重し合えるようになりました。気が付くとダニエルは、私に欠かさないパートナーとなっていました。下手な英語でも、言葉にうまく表現できなくても、ダニエルと十分心が通じ分かったことは、今でも嬉しく誇りに思っています。
 実習先の農場では、家族経営のためにダニエルと私しか労働力がなく、実習開始3日目から、一人で大型トラクターを運転し、餌関係の仕事をこなさなければなりません。始めの頃はひどいもので、トラクターの運

転ミスで、電柱にぶつかり地域一帯を停電させてしまったり、餌の量を間違え牛の乳量を4分の3に低下させたりしました。しかし、私の畜産業に対する姿勢は、飼養管理、作物栽培、農耕機具に対して、多くの興味、関心を持たせまた、農業という大きな意味での学問を、身近に感じる事ができたことは私の大きな力になったと思います。

アメリカ実習の中で一番印象に残っていることは、農場主のことです。農場主は無口な上に、日本人嫌いのため、多くのことに興味を持ちアメリカ文化に深く触れ、沢山のことを知りたいと考える私とは、お互いに理解できずに、度々トラブルがありました。そのような中で人から何かしてもらおう事を期待するのではなく、自分がどうしたいのか、どうしていくべきか、自分をどう表現するべきか、そんなことをよく考えました。その答えは現在もまだ私の中に出てはいません。しかし、自分について考えることは、人間にとって、とても大切だと思うのです。『自分らしく生きること』を考えるきっかけが、アメリカで見つかったことは、私にとって大きなプラスとなりました。

最後に、私はアメリカ実習中よく荒れた自分の手を眺め、これが自分の選んだ道かと、しばし思うことがありました。そしてその手を見て、ある時は誇らしく思い、またある時に泣きたくもなりました。だがこの自分の手は、大きな問題を前にしたとき自分にとって後悔のないよう、

最善の努力をした証だったのです。実習を終えて、一ヶ月も経たないうち、私の荒れた手は、すっかり元通りになりました。そして今、もう一度あの手に至るまでには長い月日を思い出して自分の夢に向かって、進み出そうとしています。自信をつけては失ってその繰り返し、蓄積がいつしか心の糧として、自分のものになると信じています。そしてこれからも『自分らしさとは何であろう』と考え、この先もずっと素敵に生きていければいいと思っています。



私の転機

畜産学科三年 中澤 庸子

私という人間は、生まれてから今まで、両親、学校、社会のレールの上を当たり前のように歩いてきました。「これでいいのかな？」という疑問はありましたが、周りの人達の喜んでくれる生き方だったし、またとても安全だったので満足しているつもりでした。

そんな私に、大学三年生の夏休みに筑波畜産試験場での実習のお話がありました。一週間という短い期間でしたが、牛の分娩に立ち合ったり、搾乳、除角、給餌、精液採取の実習、その他には、実験動物として使用されている、ルーメル微生物を簡単に採取するために、第一胃に穴のあいた牛や、ホルモンを測定するために、頭に電極を埋めこまれた山羊などの見学、また私達が最も興味を持っている人工受精、受精卵移植の方法、技術も見学、実習させていただきました。でも最も、実習期間の中で印象深く残っているのは、畜産試験場で働く方々との触れ合いです。研究所、現場で働く人達の経験、知識に触れたことは、私にとってまるで新しい世界に出会ったようでした。その方々が現在の畜産業についておっしゃっていたのが、研究技術と畜産技術の格差について

です。バイオテクノロジーを中心とする先端技術ばかりが重視されて、その技術に畜産現場は全く追いついていけない。そして、本当に問題としなければいけないのは畜産業に従事する人達の労働時間の改善などのために、例えば、牛の行動学などを研究することが重要であるとのことでした。

なお今回の実習に参加して、自分の視野が広がり、物を見る視点が変わったように感じました。物の見方の変化は、私に新たな人生観を与え、私は、自分の人生の階段を一步上がったように思いました。そして今までの自分の考え方の根本を変化させなければいけないと感じました。

そのような時、タイ、ネパールの海外研修のお話がありました。今までの私ならば、どうせ無理だと思って諦めるところですが、自分が変化したのならば、チャレンジしてみようと思えました。そのチャレンジに際しては、多くの方々の協力があり本当に幸に思いました。そして単なる、憧れであった海外研修は、現実のものとなりました。多くの方々の協力が、合格というパスポートにつながったのです。

次の段階として、研修後に自分にどのような変化が生まれるか分かりませんが、自分自身がとても楽しみです。筑波畜産試験場実習を通して培ったことが、自分の将来の転機になったことは事実です。自分の可能性を信じてこれからも多くのことにチャレンジしようと思います。

平成9年度畜友会事業報告

- 1月13日 平成8年度畜友会定期総会
- 3月 1日 畜友会誌「ふじみの第33号」発行
- 3月20日 卒業祝賀会・卒業記念品贈呈
- 4月26日、
27日 新入生学外オリエンテーションに参加 (於 富士畜産農場)
- 5月 7日 新入生歓迎会 (於 生協1階 ゆないと ※会費千円)
- 5月27日～
6月15日 第26回学内スポーツ大会参加
- 6月20日 第26回学内スポーツ大会慰労会
(於 カフェテリア・グリーン)
- 8月 2日 1年生を対象とした収穫祭説明会 (於 富士畜産農場)
- 9月14日～
16日 畜友会夏期合宿 (於 八ヶ岳 ※自費)
- 10月16日 第106回収穫祭畜産学科統一本部本部開き
(於 レストラン・すずしろ)
- 10月31日～
11月 4日 第106回収穫祭参加
- 11月27日 第106回収穫祭畜産学科統一本部慰労会
(於 レストラン・すずしろ)

正しい農大生的体験

畜産学科二年 矢崎 潤

畜産学科では2年次の夏休み中に農場実習が行なわれる。その実習中に学生達は一羽の生きた鶏を数人1チームで「鶏肉」にすることを体験する。最初はみんな嫌がっていたがやっているとだんだん楽しくなるようになり、終わる頃には切り取った足の腱を引っ張ってジャンケンしたり、目玉をほじくって指の先につけ「オイ、鬼太郎」と、言うなど笑えないギャグをかましてくれる者まで出現し、一種異様なムードに包まれていたのだ。

とりあえず実習が終わり夏休みが明ける頃には、誰もがみんな丸ごと一羽の鶏を「ただの鶏肉」にする事ができるようになっていく。ただ、こういう事はやらなると忘れていくだろうという友達の意見もあって、自分たちで再度やってみようという計画が持ち上がり、トリパーティと称して実行する事となった。

そのパーティは、最も大学に近く集まりやすいという単純な理由からY君のアパートで実行され、彼の部屋の台所はスプラッタな惨劇の場となったのである。しかも運悪く、台所の窓を開放して大騒ぎしながら鶏を切り刻んでいた為、前の道をたまたま通りがかったアパー

トの大家さんが現場を目撃してしまい、大絶叫の後「やっぱり農大生は得体が知れない」とはきずてるように言われてしまった。

そんな出来事にもめげず、鶏をキレイにただの鶏肉にすることができ、結局二羽の鶏が七品の料理となり数名の胃袋におさまった。確かにシークレット・ギグ的ではあったが、このようにして友達数名と協力しながら鶏を処理し、美味しく食べた事は実習以上に貴重な体験となった。我々人間は、他の生物の命を奪って自分達の命を維持しているという普段忘れがちな事を改めて実感できただけでも、この学科に入った意味は大きいと友達数名で話しつつ、第2回トリ肉パーティをいつにするか計画を練っている最中なのである。

東京農業大学農友会第106回収穫祭 畜産学科統一本部決算報告

	予 算	決 算	差引残高
統 一 本 部	350,000	313,491	36,509
前夜祭・特別企画	10,000	38,816	△ 28,816
体 育 祭	40,000	29,739	10,261
宣 伝 隊	50,000	59,829	△ 9,829
北 門 装 飾	10,000	0	10,000
家 畜 苑	10,000	0	10,000
文 化 学 術 展	130,000	39,585	90,415
計	600,000	481,460	118,540

上記相違ないことを認めます。

東京農業大学農友会創立106回収穫祭

畜産学科統一本部会計

平成9年度畜友会会計監査

三 好 順 子 ㊟
四年 宇佐見 鈴 子 ㊟
三年 河 路 恭 太 ㊟
二年 小 野 浩 輔 ㊟
一年 勝 又 瑞 穂 ㊟

平成9年度畜友会決算報告

(平成9年11月30日現在)

収 入 の 部	予 算	決 算	差引残高
前年度繰越金 (会費収入)	866,870	866,870	0
新 入 生	1,600,000	1,296,000	304,000
編 入 生	40,000	0	40,000
未 納 会 員	584,000	236,000	348,000
利息及び雑収入	1,500	123,185	△121,685
計	3,092,370	2,522,055	530,315
支 出 の 部	予 算	決 算	差引残高
卒業生祝賀会費	120,000	100,000	20,000
卒業生記念品費	220,000	200,232	19,768
新入生歓迎会費	120,000	105,006	14,994
「ふじみの」第33号印刷費	425,000	650,070	△ 225,070
学内スポーツ大会費	240,000	78,800	161,200
収穫祭説明会費	40,000	0	40,000
収穫祭援助費	660,000	600,000	60,000
総 務 費	60,000	63,203	△ 3,203
予 備 費	891,279	60,000	831,279
計	2,776,279	1,857,311	918,968

収入総額 支出総額 次年度繰越金
2,522,055 - 1,857,311 = 664,744

上記相違ないことを認めます。

平成9年度畜友会会計監査委員

4年 宇佐見 鈴 子 ㊟ 3年 河 路 恭 太 ㊟
2年 小 野 浩 輔 ㊟ 1年 勝 又 瑞 穂 ㊟

創立一〇六年収穫祭結果報告

前夜祭・特別企画

総合順位

前夜祭

野外劇

先生のど自慢

伊藤 澄磨先生

天までとどけ！ダバダ歌合戦

鈴木 鈴則

千葉 拡

星野 大士

美人コンテスト

高橋 伸一

それいけ農大大集合

十三位
十三位
銅賞

優勝

優六位

優六位

十位
十三位

優五位
勝

体育祭

総合順位

玉入れ

農大健児の意気を見よ！

農大競馬

先生頑張って♥

綱引き

各学科対抗リレー

男子

女子

応援合戦

やぐら装飾

三位
四位
九位
二位
一位

十一位

優六位
九位

第二十七回

学内スポーツ大会結果報告

総合

バレーボール

(男子)

一回戦敗退

一回戦敗退

(女子)

一回戦敗退

バスケットボール

(男子)

一回戦敗退

(女子)

一回戦敗退

バトミントン

二回戦敗退

ユニホック

一回戦敗退

ゲートボール

優勝

十五人なわとび

四位

ミニサッカー

一回戦敗退

ドッチボール
相撲

一回戦敗退

優勝

新会則による平成9年度畜友会事業計画（案）

（平成9年12月1日～平成10年5月31日）

- 3月 中旬 畜友会誌「ふじみの第34号」発行
- 3月20日 卒業祝賀会・卒業記念品贈呈
- 4月 上旬 新入学生内オリエンテーション参加（於 厚木キャンパス）
- 4月16日
～17日 新入学生外オリエンテーション参加（於 富士畜産農場）
- 4月 下旬 新入生歓迎会（於 厚木キャンパス）
- 5月 下旬 第27回学内スポーツ大会団結式
- 5月 下旬 平成10年度畜友会総会

新会則による平成9年度畜友会役員

平成9年12月1日～平成10年5月31日

役 職	氏 名	研究室
会 長	天 野 卓	育 種
副 会 長	栗 原 良 雄 門 司 恭 典	飼 養 繁 殖

執行委員

役 職	氏 名	学年	研究室
委 員 長	三 嶋 純 雄	3	繁 殖
副 委 員 長	平 野 博 之	3	利 用
	千 葉 耕 太 郎	2	
書 記	堀 崎 成 紀	3	衛 生
	小 森 美 和	2	
会 計	山 本 雅 俊	3	繁 殖
	三 好 順 子	2	
涉 外	柳 竜 太	3	繁 殖
	持 田 隆 信	2	
企 画	渡 辺 信 一	3	衛 生
	松 野 里 香	2	
庶 務	栗 山 圭 一	3	繁 殖
	中 村 和 正	2	
編 集	辻 見 洋 介	3	繁 殖
	吉 田 秀 一	2	
監 事	古 川 徳 善	3	利 用 繁 殖
	松 岡 昭 善		
	後 藤 和 人	2	
	田 端 将 人	2	

東京農業大学農学部畜産学科

“畜友会”会則

第一章 総則

第一条 本会は東京農業大学農学部畜産学科畜友会と称する。

第二条 本会は事務局を東京農業大学農学部畜産学科内に置く。

第三条 本会は会員相互の親睦を図り、併せて畜産学科の発展に寄与することを目的とする。

第二章 業務

第四条 本会は第三条の目的達成のために次の事業を行う。

- 一、会員相互の親睦
- 二、講習会、研修会および研究会発表の開催
- 三、機関紙「ふじみの」の発行
- 四、大学行事（収穫祭等）への参加
- 五、その他第三条に付帯する業務

第三章 会員および役員

第五条 本会の会員は次の通りとする。

- 一、正会員 畜産学科の学生
- 二、特別会員 畜産学科教職員並びに大学院生
- 三、名誉会員 役員会の推薦を受け、総会の承認を得た者

第六条 本会は次の役員を置く。

- 一、会長 一名
- 二、副会長 二名
- 三、執行委員

委員長 一名

副委員長 二名

書記 二名

会計 二名

渉外 二名

企画 二名

庶務 二名

編集 二名

監事 四名

第七条 一、会長は会を代表し、会務を総理する。

副会長は会長を補佐し、会長事故ある時はこれを代理する。

一名は総務を他の一名は会計を分担する。

二、委員長は会長の指示を受け、執行委員会を統括する。

副委員長は委員長を補佐し、委員長不在

の時はその代理をする。各委員はそれぞれの会務を分担執行する。

第八条 一、本会には連絡委員を置く。

- 二、連絡委員は一、二年次からそれぞれ四名、各研究室から一名選出する。連絡委員は各学年および各研究室の意見を掌握し、連絡委員会での意見を反映するとともに執行委員会の決定事項を会員に伝達する。

第九条 役員および連絡委員の選出および任期

- 一、会長は畜産学科長がこの任にあたる。副会長および監事は、会長が畜産学科教職員の中から推薦し、総会において決定する。

二、新執行委員会は、現執行委員会の推薦に基づき総会において決定する。但し、委員長は三年次生、各執行委員の二名の内一名は三年次生、他の一名を二年次生より選出するものとする。

尚、監事四名の内二名は畜産学科教職員がその任にあたる。また、監事は他の役員を兼任することはできず、その任期は原則として一年とし、再任を妨げない。三、執行委員に欠員を生じた場合は、執行委員会に諮り補充することができる。四、連絡委員は、各学年（一、二年次）お

よび各研究室（三、四年次）で協議のうえ選出する。また、任期は原則として一年とし、再任を妨げない。

第四章 総会

第十条 一、総会は定期総会と臨時総会とする。

二、総会は正会員および特別会員をもって構成され、本会の最高意思決定機関とする。

三、定期総会は原則として年一回、六月に会長が招集し、開催する。

四、臨時総会は会長が必要と認めた場合ならびに正会員および特別会員総数の四分の一以上の同意を得て開催目的および招集理由を記載し、会長に提出する時招集開催することができる。

総会開催は七日以前に公示しなければならない。

一、総会は正会員および特別会員の四分の一以上の出席により成立する。

二、委任状は所定の用紙に署名捺印のうえ議長に一任する。

委任状は総会の定足数に含まれるが、正会員および特別会員数の五分の一を上限とする。

三、委任状の検査は執行委員が行う。

第十三条

定期総会は次の事項を決議する。
一、前年度の事業報告および収支決算報告

- 二、次年度の役員
- 三、次年度の事業計画および収支予算
- 四、会則の改正
- 五、その他

第十四条

総会における議長は総会においてその都度互選する。尚、必要に応じて議長は副議長を指名することができる。

第十五条

議長は書記二名と議事録署名人二名を選出する。尚、議事録署名人の内一名は畜産学科教職員とする。

第十六条

総会の議決は出席者の過半数によって議決され、可否同数の場合は議長の決するところによる。

第十七条

総会出席者により執行委員の不信任を可決することができる。但し、この場合の出席者には委任状は含まない。

第五章 執行委員会および連絡委員会

第十八条

一、第六条三の執行委員は本会の最高執行機関たる執行委員会を構成する。

第十九条

二、会長および副会長は必要に応じて執行委員会に出席することができる。
執行委員会は原則として月一回委員長が招

集する。執行委員会は執行委員の三分の二以上により成立する。執行委員会の議長は委員長が務め、出席者の過半数により可決し、可否同数の場合は議長の決するところによる。

第二十条

執行委員会は総会の議決に基づき、本会の目的遂行に関する一切の会務を執行処理する。

第二十一条

執行委員会で議決された事項について、委員長は会長および副会長に文書で必ず報告する。

第二十二条

連絡委員会は委員長が総会前に必ず招集開催する。また、委員長が必要を認めた場合に開催することができる。

一、連絡委員会には執行委員および連絡委員が出席する。議長は委員長が務める。

二、連絡委員会は次の事項を処理する。

- (一) 執行委員会で決定した事項の伝達。
- (二) 一、二年次および各研究室からの意見の聴取および意見交換。

三、連絡委員会には必要に応じて会長、副会長も出席する事ができる。

第二十三条

本会の事業年度および会計年度は六月一日に始まり、翌年の五月末日までとする。

第六章 会計

第二十四条

本会の運営は会費および寄付金ならびにその他の収入を以てこれにあてる。

但し、第四条の目的を達成のため臨時徴収する場合もある。

第二十五条

一、会費は年間二、五〇〇円とし、入学時に一括して一〇、〇〇〇円を納入する。編入・転学科学生は学年に応じた金額を一括納入する。但し、一度納入した会費は返金しない。しかし、入学取消しの場合はその限りではない。

二、会費は会長および委員長連名で毎年三月に入学対象者に対して請求するものとする。

第二十六条

本会の会計は、所定の形式に従って処理し、決算はすべて監事の監査を経なければならぬ。

第七章 機関紙「ふじみの」編集発行

第二十七条

一、第四条三の目的達成の為に編集委員会を設ける。
二、編集委員会の委員は執行委員および正会員の中から若干名選出する。
三、編集委員会の責任者は編集委員の内一名が担当する。

四、編集委員会は機関紙「ふじみの」の編集発行を責任をもって執行する。

第八章 大学行事への参加

第二十八条

一、第四条四の目的達成の為に必要に応じて委員会を設ける。

二、設けた委員会は本会の目的達成の為に執行委員会の意思を受け運営する。

尚、内規は別に定める。

三、委員会の責任者は執行委員の内一名が必ず当たる。構成員については、正会員の中から必要に応じた人数を選出する。

第九章 監査

第二十九条

監事は本会が目的達成の為、円滑に業務を執行しているか否かを監査する。

第三十条

監事は前条目的の為業務監査および会計監査を行い、その結果を総会において報告する。尚、必要と認められた場合は随時監査することができる。

第十章 付則

第三十一条

本規定の最終解釈は役員会で行う。

第三十二条

本会則は前規約を改正し、平成一〇年二月二〇日よりこれを施行する。

編集後記

「ふじみの」も今年で第三十四号を発行する事ができました。

平成十年度は、学科移転などがあり、「ふじみの」の発行が遅れてしまいました。お忙しい中書いて頂いた先生方、先輩方そして同輩や後輩などに協力してもらい、よりよい「ふじみの」ができたと思います。どうか、隅から隅まで読んで頂きたいと思います。

最後になりましたが、この一冊を発行するに当たって原稿を書いて頂いた先生方、ならびに会員の方々に、深く、御礼を申し上げます。

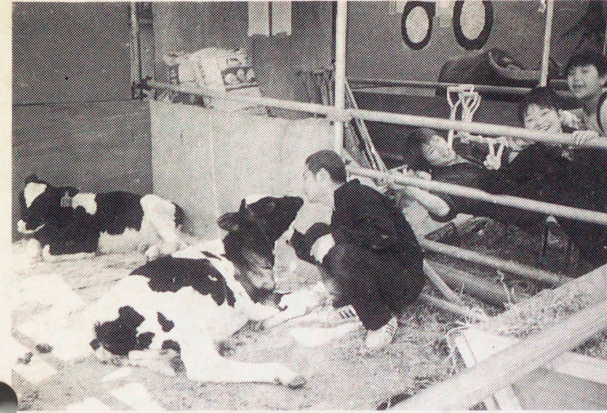
編集委員代表 辻見 洋介

平成10年4月13日 発行
“ふじみの”第34号

東京都世田谷区桜丘1-1-1
発行所 東京農業大学畜友会
電話 (3420) 2131(内)

編集責任者 辻見洋介
編集長 吉田秀一
発行者 畜友会

東京都世田谷区経堂1-6-13
印刷所 エルデ・タイプ社
電話 (3429) 1067



平成9年度 収穫祭



平成9年度 みこしの完成式



平成9年度 収穫祭の準備